



LDR

ご案内

陣痛 (Labor)、分娩 (Delivery)、回復 (Recovery) の頭文字をとったものです。

2024年6月開設のLDRで、より負担が少なく快適なお産を

当院では、地域のみなさんが安心して妊娠・出産ができるように周産期医療に取り組んでまいりましたが、分娩における環境は1998年の開院当時のままで、陣痛の痛みのさなかに陣痛室から分娩室にご移動いただくなど、ご不便をおかけしていました。

そこで、安全なお産はもちろんのこと、より快適なお産を提供するため、2024年6月に陣痛室、分娩室、回復室が一体となったLDR (Labor Delivery Recovery) を開設しました。LDRは、陣痛が始まってから分娩が終了するまで滞在していただくお部屋で移動の負担がなく、立ち会いのご家族とも一緒に過ごすことができ、リラックスしてお産に臨むことができます。

室内は病棟と同様に木目調の落ち着いたインテリアで統一し、お

産をするのに十分な広さを確保しました。また、新型コロナウイルスをはじめとする感染症に罹患していても安全に経膈分娩ができるように、陰圧のシステムを導入しました。

当院の産婦人科は慶應義塾大学病院の関連施設であり、大学から多くの医師が派遣されておりマンパワーも充実し、24時間365日体制で患者さんを受け入れています。総合病院であり小児科があることから、小さく生まれた赤ちゃんには小児科医が適切な医療的ケアを行っています。

産前から産後まで助産師を中心に全スタッフが患者さんに寄り添い丁寧に対応することで、満足度の高いお産になるように努めています。



周産期担当診療部長 櫻井 信行

北海道大学医学部卒業。2014年4月入職。2015年産婦人科部長に就任、2021年より現職。医学博士、慶應義塾大学医学部非常勤講師。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医・指導医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、母体保護法指定医、緩和ケア講習会修了。診療のモットーは、患者さんの立場になって考えること。業務の効率化を常に考えて仕事をしています。趣味は読書とランニング、ワインと日本酒を嗜みます。



常食

REGULAR FOOD



入院中の食事を少しでも楽しんでいただきたいという思いを込めて、旬の食材を取り入れた行事食や郷土料理、テーマを決めたイベント食、2種類の食事からメニューを選べる選択メニューなどを実施しています。

栄養改善食

NUTRITIONAL IMPROVEMENT FOOD



食事のすまない方や、栄養状態の改善が必要な方へ、全体の食事量を半分にして、少量でも栄養がとれる栄養補助食品をプラスした食事を提供しています。一人ひとりの状態に合わせて対応しています。

入院中のお食事について

患者さんの病状や食べる機能に合わせたお食事を、医師の指示のもと管理栄養士による食事療養を行い、安心しておいしく食べていただけるよう提供することを心がけています。

産科食

OBSTETRIC FOOD



出産された方へ、出産で疲れたからだを回復するための栄養、母乳に必要な栄養素にも配慮したメニューを和洋中、日替わりで提供しています。退院前のご夕食には「お祝い膳」を提供しています。

産科食おやつ

OBSTETRIC SWEETS



産科食には、パンケーキなどのおやつと共に、授乳や育児の合間にほっとしていただきたいという思いを込めて、様々なフレーバーハーブティを日替わりで提供しています。



栄養科からのメッセージ

MESSAGE FROM THE NUTRITION DEPARTMENT

栄養科では、担当栄養士が入院時より患者さん一人ひとりの栄養状態や身体状況、嚥下機能などを把握し、医師をはじめとした医療スタッフと協力し栄養管理を行っています。治療食を必要とする患者さんへは栄養指導を、食事のすまない患者さんへは食事内容の調整を行い、栄養障害や疾病の早期回復をお手伝いします。外来患者さんへは医師の指示に基づいた栄養指導を実施し、食習慣や検査結果から問題点を共に考え、患者さんに合った食事をご提案します。栄養について心配なことがありましたらお気軽にご相談ください。

